

注3

大学番号：私596

[平成23年度設置]

計画の区分：大学新設

注1

認可

日本映画大学

注2

【認可】設置計画履行状況報告書

学校法人神奈川映像学園

平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 日本映画大学総務部

職名・氏名 ソウムフチョウ シミズ ヒトシ
総務部長 清水 等

電話番号 044-951-2511

（夜間） 044-951-2511

F A X 044-951-2681

e-mail shimizu@eiga.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部

（□□学部（平成◇◇年度より変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

	頁
1 調査対象大学等の概要等	1
2 授業科目の概要	5
3 施設・設備の整備状況、経費	1 2
4 既設大学等の状況	1 4
5 教員組織の状況	1 5
6 留意事項に対する履行状況等	2 1
7 その他全般的事項	2 2

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 神奈川映像学園

(2) 大 学 名

日本映画大学

(3) 大学の位置

(本部・新百合ヶ丘校舎)

〒215-0004

神奈川県川崎市麻生区万福寺1-16-30

白山校舎

〒215-0014

神奈川県川崎市麻生区白山2-1-1

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ササキ マサミチ) 佐々木 正路 (平成19年10月)		
学 長	(イイリ タダオ) 飯利 忠男 (平成23年4月)		
学 部 長	(タカハシ セオリ) 高橋 世織 (平成23年4月)		
学科長等	(イマムラ ダイスケ) 今村 大介 (平成23年4月)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成24年度に報告済の内容 → (24)

平成26年度に報告する内容 → (26)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ 様式は、平成23年度開設の4年制の学科の場合（平成26年度までの4年間）ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）

(5) - ① 調査対象学部等の名称、定員

調査対象学部等の 名称（学位）	設置時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
日本映画大学 映画学部 映画学科 学士（映画学）	4 年	140 人	2年次 20 人 3年次 10 人	640 人	平成23年4月に1年次 平成24年4月に2年次編入 平成25年4月に3年次編入 開設

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区 分	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	140 (-) ((-)) [若干名]	-	140 (20) ((-)) [若干名]	-	140 (20) ((10)) [5]	-	140 (20) ((10)) [5]	-	0.99倍	() 書きは 2年次編入 (()) 書きは 3年次編入
志願者数	366 (-) ((-)) [13]	(-)	232 (12) ((-)) [8]	(-)	190 (4) ((1)) [16]	(-)	224 (4) ((2)) [14]	()		
受験者数	354 (-) ((-)) [13]	(-)	218 (12) ((-)) [8]	(-)	176 (4) ((1)) [15]	(-)	209 (4) ((2)) [14]	()		
合格者数	235 (-) ((-)) [13]	(-)	207 (10) ((-)) [7]	(-)	173 (4) ((1)) [13]	(-)	195 (4) ((2)) [12]	()		
B 入学者数	166 (-) ((-)) [11]	(-)	144 (4) ((-)) [6]	(-)	126 (3) ((1)) [12]	(-)	124 (3) ((2)) [9]	()		
入学定員超過率 B/A	1.18		1.02		0.90		0.88			

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(()) 書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入してください。

- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度	平成 2 3 年度		平成 2 4 年度		平成 2 5 年度		平成 2 6 年度		備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次		[11] 166	[-] -	[7] 145	[-] -	[13] 129	[-] -	[8] 126	[-] -	
2 年次				[8] 159	[-] -	[6] 142	[-] -	[11] 127	[-] -	
3 年次						[7] 149	[-] -	[5] 131	[-] -	
4 年次								[7] 139	[-] -	
計		[11] 166		[15] 304		[26] 420		[31] 523		

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成23年度 入学者	166 人	21 人	平成23年度	10 人	2 人	・他の教育機関への入学・転学(4名)・就職(2名)・就学意欲の低下(2名)・家庭の事情(2名)	12.7 %
			平成24年度	4 人	0 人	・就学意欲の低下(1名)・家庭の事情(1名)・除籍(2名)	
			平成25年度	7 人	1 人	・学生個人の心身に関する事情(2名)・就学意欲の低下(1名)・他の教育機関への入学・転学(1名)・家庭の事情(1名)・その他(1名)・除籍(1名)	
			平成26年度	0 人	0 人		
平成24年度 入学者	148 人	21 人	平成24年度	10 人	1 人	・他の教育機関への入学・転学(6名)・就学意欲の低下(2名)・家庭の事情(2名)	14.2 %
			平成25年度	11 人	2 人	・他の教育機関への入学・転学(4名)・就職(2名)・就学意欲の低下(1名)・学生個人の心身に関する事情(1名)・家庭の事情(1名)・除籍(2名)	
			平成26年度	0 人	0 人		
平成25年度 入学者	130 人	8 人	平成25年度	8 人	1 人	・家庭の事情(2名)・就学意欲の低下(1名)・他の教育機関への入学・転学(1名)・就職(1名)・除籍(3名)	6.2 %
			平成26年度	0 人	0 人		
平成26年度 入学者	129 人	0 人	平成26年度	0 人	0 人		0 %
合 計	573 人	50 人					8.7 %

(注)・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<映画学部 映画学科>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	基幹	スタートアップ演習	1前	4		12	10 9	1			担当教員追加 (25) 土田環 (准教授) 平成24年12月教員審査済 判定 可
	基幹	人間総合研究	1前	8		5	5 4			1	担当教員追加 (25) 土田環 (准教授) 平成24年12月教員審査済 判定 可
	A群	日本文化論	1～4前	2		1					
		日本伝統音楽概論	1～4前	2							兼 1
		能楽概論	1～4前	2							兼 1
		日本政治思想史	1～4前	2							兼 1
		批評論	2～4前	2			1				
		美術史	2～4通	4							兼 1 学生の選択肢を増やすため、各2単位の2科目に分割し、この科目は削除する。2年次は必修科目の履修で学生に余裕がないことから、配当年次も3～4年に変更。(24)
		美術史Ⅰ	2 3～4前	2							兼 1 学生の履修機会を増やすために2年次の時間割を調整し、配当年次を変更。(26)
		美術史Ⅱ	2 3～4後	2							兼 1 担当兼任教員変更 (25) 鹿島崎→高橋瑞木 担当兼任教員変更 (26) 高橋瑞木→佐川美智子 学生の履修機会を増やすために2年次の時間割を調整し、配当年次を変更。(26)
		サブ・カルチャー論	1～4後	2			2				ペア
		哲学	1～4後	2			1				
		絵巻特論	2～4後	2							兼 1
		演劇WSⅠ	2～4後	2		1					
		物語WS	2～4後	2			1				
		フェミニズムの視点	2～4後	2		1					
		演劇WSⅡ	3～4後	2		1					
		触覚論	2 3～4後	2		1	1				ペア 学生の履修機会を増やすため、配当年次を変更。(26)
	B群	情報社会論	1～2前	2			1				
		文章表現論	1～2前	2			1				
		フィールド調査方法論	1～2前	2			1				
		文化研究方法論	1～2前	2		1					
		文化人類学	1～2前 後	2							兼 1 時間割調整により配当時期を変更。(25)
		韓国語	1～4前 後	2			1				時間割調整により配当時期を変更。(25)
		英語Ⅰ	1～4前	2		1					英語を履修する機会を増やすため、平成25年度より隔年で2クラス開講とする。平成25年度は2クラス。(25) 平成26年度は1クラス開講。(26)
		日本語	1～4前	2		1					
		情報メディア論	1～4後	2			1				
		英語Ⅱ	1～4後	2		1					
		中国語	1～4後	2							兼 1
		コミュニケーション	2～4後	2		3					コラボ
	C群	翻訳概論	未開講 3～4前	2		1					「英語Ⅰ」が平成25年度より隔年で2クラス開講となったことを受け、同教員の関連科目である本科目を、隔年開講科目に変更。平成25年度は休講。(25) 平成26年度は開講。(26)
		表象文化論	1～4後 1～2前	2		2	1 3				ペア 学生の履修機会を増やすため、配当年次および配当時期を変更。(25) 新規採用教員の専門領域であるため、ペア2科目から単独科目に変更。(25) 担当：土田環 (准教授) 平成24年12月教員審査済 判定 可
		国際理解基礎Ⅰ	1～2後	2		1					
	C群	著作権入門	1～4前	2							兼 1

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	C 群	現代中国の生活文化事情	1～4前		2							兼 1	学生の履修機会を増やすため、配当年次を変更。(26)
		社会学入門	1～2 4後		2			1					
		民俗学	1～4前		2							兼 1	担当兼任教員変更 (25) 姫田忠義→姫田蘭
		朝鮮半島の近現代社会史	2 3～4後		2			1					学生の履修機会を増やすため、配当年次を変更。(26)
		死生観のコスモロジー	未開講 3～4後		2		3					兼 1	オムニバス 隔年開講科目に変更 平成25年度は休講。(25) 平成26年度は開講。(26)
		ジャーナリズム論	2 3～4後		2			1					学生の履修機会を増やすため、配当年次を変更。(26)
		日本へのまなざし	2 3～4後		2		3	3 2					オムニバス 担当教員追加 (25) 土田環 (准教授) 平成24年12月教員審査済 判定 可 学生の履修機会を増やすため、配当年次を変更。(26)
	D 群	地球環境倫理学	1～4前		2							兼 1	
		都市・建築空間論	1～4後		2							兼 1	
		自然災害学	未開講 1～4後		2							兼 1	担当兼任教員の事情のため、平成25年度は休講。(25) 平成26年度は開講。(26)
		デジタル映像技術概論	2～4後		2							兼 1	
		科学技術文明論	1～4後		2							兼 1	
		森林環境学	1～4後		2							兼 1	
		音響論	3～4後		2		2						コラボ
	環境思想	未開講 3～4後		2		2					兼 2	オムニバス 隔年開講科目に変更。 平成26年度は休講。(26)	
	E 群	身体文化論	2～4前		2		1						鴻英良 (教授) 就任辞退に伴い、科目廃止。教養科目E群は他に9科目あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。(25)
		精神医学入門	1～4前		2							兼 1	
		教育福祉制度論	1～4前 後		2							兼 1	時間割調整により配当時期を変更。(26)
		キャリア・サポートⅠ	1 2前		2			1				兼 1	キャリアサポート3科目の位置づけを本学学生の状況に応じて見直したことにより、配当年次を変更。(26)
		キャリア・サポートⅡ	3前 後		2							兼 1	兼任教員変更：山本繁→斉藤寛子 (26) キャリアサポート3科目の位置づけを本学学生の状況に応じて見直したことにより、配当時期を変更。(26)
		キャリア・サポートⅢ	4前 後		2							兼 1	兼任教員変更：山本繁→斉藤寛子 (26) キャリアサポート3科目の位置づけを本学学生の状況に応じて見直したことにより、配当時期を変更。(26)
		認知心理学	2～4後		2							兼 1	
		体育	1 2～4後		2 1							兼 1	学生の履修機会を増やすため、配当年次および単位数を変更。(25) 履修希望者の増加にともない平成26年度から2クラス開講。(26)
		インターンシップⅠ	3～4通		2			1	2 1			兼 1	担当教員追加 (25) 土田環 (准教授) 平成24年12月教員審査済 判定 可 山本繁 (兼任)
		インターンシップⅡ	3～4通		4			1	2 1			兼 1	担当教員追加 (25) 土田環 (准教授) 平成24年12月教員審査済 判定 可 山本繁 (兼任)
基礎科目		創作系	脚本基礎演習	1前・1後	2			2	1				
	長編シナリオ演習Ⅰ		1後・2前	2			2	1					
	長編シナリオ演習Ⅱ		2前・2後	2			2	1					
	長編シナリオ制作		2前	4			2	1					
	映画制作基礎演習		1後	8			3	2	1		1		
	映画制作特別演習		1後		10		4	1					2年次編入学生および、「映画制作基礎演習」(必修8単位)と「脚本基礎演習」(必修2単位)の成績が不合格となった者を対象に設けていたが、「映画制作基礎演習」、「脚本基礎演習」それぞれに特別クラスを開講することにしたため科目を廃止した。(24)
	ビデオ・デジタル技術基礎演習		2前	2				1				3	教育の充実を図るため、担当助手を追加。(26)
	映画美術論		2前		2		1						

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎 科目	理論系	映画史概論		2		1					
		日本映画史		2		1					
		イメージの図像学		2		1					
		映画ヒーロー論	1後 前	2		1	4 3				オムニバス 担当教員追加 (25) 土田環 (准教授) 平成24年12月教員審査済 判定 可 教育効果を高めるため配当時期を変更。 (26)
		映像とことば		2		1	2				コラボ
	理論系	映画と演劇		2		1					
		フィルム・アーカイヴ学		2		1	1				ベア 担当教員追加 (25) 土田環 (准教授) 平成24年12月教員審査済 判定 可
		映画流通論		2		1	1				ベア 担当教員追加 (25) 土田環 (准教授) 平成24年12月教員審査済 判定 可
		英米文学精読		2		1					
		パフォーマンス概論		2		+					清英良 (教授) 就任辞退に伴い、科目廃止。理論系の基礎科目は他に12科目あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。(25)
		芸能概論		2		1					
		コンテンツ文化史		2			1				
		国際理解基礎Ⅱ		2		1					
専門 基礎 科目	創作系	脚本専門基礎講義		2		1	1				オムニバス
		演出専門基礎講義		2		3	1	1			オムニバス
		撮影照明専門基礎演習		2		1	1			1	教育の充実を図るため、担当助手を追加。(26)
		録音専門基礎演習		2		1				1	
		編集専門基礎演習		2			1				
		ドキュメンタリー専門基礎演習		2		1					
	理論系	理論専門基礎講義	2前	2		5	6				平成25年度の履修コースの変更(理論A・Bコースを理論コースに統合)にともない、科目を新設。(26)
		理論A専門基礎講義	2前	2		2	3 2				オムニバス 担当教員追加 (25) 土田環 (准教授) 平成24年12月教員審査済 判定 可 「理論専門基礎講義」への統合により科目廃止。(26)
		理論B専門基礎講義	2前	2		3	3				オムニバス 「理論専門基礎講義」への統合により科目廃止。(26)
専門 科目	創作系	脚本専門演習Ⅰ-1	2後	2		1	1				
		脚本専門演習Ⅰ-2	3前	2		1	1				
		脚本専門演習Ⅱ	3後	8		1	1				
		脚本演出専門演習Ⅰ-A	2後	8		1	1	1			
		脚本演出専門演習Ⅰ-B	2後	8			1	1			
		脚本演出専門演習Ⅱ	3後	8		1	1	1			
		技術合同専門演習	2後	8		2	2			2 +	教育の充実を図るため、担当助手を追加。(26)
		撮影照明専門演習	3後	8		1	1			1	
		録音専門演習	3後	8		1				1	
		編集専門演習	3後	8			1				
		ドキュメンタリー専門演習Ⅰ	2後	8		1					
		ドキュメンタリー専門演習Ⅱ	3後	8		1					
	理論系	合同制作A	3前	10		3 4	4	1		2	記載ミスを修正。(26)
		合同制作B	3前	10		2					
		映画美術演習	2後	2		1					
		映画理論A	2後	4			1				
		映画理論B	2後	4			1				
		映画理論研究	3前	4			1				
		映画イメージ論	3後	2			1				
		映画ジャンル論B	3前	2			1				
		映画前史	2後	4		1					
		アメリカ映画史	3後	2							兼 1 兼任教員変更：坂尻昌平→後任未定 (26)
		文芸精読	3前	4		1					
		シュルレアリスム研究	3前	4		1					

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	戯曲精読	3前		4		1					鴻英良（教授）就任辞退に伴い、科目廃止。理論系の専門科目は複数あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。（25）
	舞台芸術批評研究	2後		4		1					鴻英良（教授）就任辞退に伴い、科目廃止。理論系の専門科目は複数あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。（25）
	考える身体	3前		2		1					鴻英良（教授）就任辞退に伴い、科目廃止。理論系の専門科目は複数あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。（25）
	宝塚学	3後		2		1					
	メディア表現論	2後		4			1				
	クイア理論	3前		4		1					
	エスニシティ研究	2後		4			1				
	国際理解Ⅱ	3前		4		1					
	映画理論C	3後		2			1				
	比較映画論	2後		2		2	3 2				オムニバス 担当教員追加（25） 土田環（准教授） 平成24年12月教員審査済 判定 可
	映画ジャンル論A	2後		2			1				
	アジア映画史	3前		2		1					
	ドキュメンタリー映画史	2後		2		1	1				ハ'7 担当教員追加（25） 土田環（准教授） 平成24年12月教員審査済 判定 可
	シネリテラシー研究	3前		2			1				兼 2 1 担当教員追加（25） 中川謙（准教授） 中山周治（兼任）
	シネリテラシー演習	3後		2				1			兼 2 1 コラボ 担当教員追加（25） 熊澤聖人（講師） 中山周治（兼任）
	プロデュース論Ⅰ	3前		2							兼 1
	プロデュース論Ⅱ	3後		2							兼 1
	上映企画WS	3後		2		1					
	映像人類学	2後		2							兼 1
	物語論	2後		2		2	2				オムニバス
	文芸WS	3後		2			1				
	言語芸術論	3後		2		2					コーディネーターの鴻英良（教授）就任辞退に伴い、科目廃止。理論系の専門科目は複数あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。（25）
	情況論	3後		2			1				
	国際理解Ⅰ	2後		2		1					
	卒業制作Ⅰ	4前 通		8		7	4	1		2	制作期間が後期まで必要とされることから、実態に即して配当時期を変更。（26）
	卒業制作Ⅱ	4後		4		7	4	1		2	
	卒業論文・プロジェクトⅠ	4前 通		8		5	6 5				担当教員追加（25） 土田環（准教授） 平成24年12月教員審査済 判定 可 研究・執筆期間が後期まで必要とされることから、実態に即して配当時期を変更。（26）
	卒業論文・プロジェクトⅡ	4後		4		5	6 5				担当教員追加（25） 土田環（准教授） 平成24年12月教員審査済 判定 可

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
資格科目	博物館・社教 生涯学習概論	3～4通			4						兼 1 学生の選択機会を増やすため、各2単位の2科目に分割し、この科目は削除する。(24)
	博物館・社教 生涯学習概論Ⅰ	2 3～4前			2						兼 1 学生の履修機会を増やすため、配当年次を変更。(25) 兼任教員変更(26) 新藤浩伸→栗原保
	博物館	教育学概論			2						兼 1 新カリキュラムでの学芸員養成課程の申請に伴い、削除。(23)
		博物館学			4						兼 1 新カリキュラムでの学芸員養成課程の申請に伴い、削除。(23)
		博物館概論			2						兼 1 兼任教員変更(26) 木下直之→植野真澄
		博物館経営論			2						兼 1 兼任教員変更(26) 山崎俊夫→志賀健二郎
		博物館資料論			2						兼 1 兼任教員変更(26) 佐川美智子→太田泰人
		博物館資料保存論			2						兼 1
		博物館展示論			2						兼 1
		博物館教育論			2						兼 1
		博物館情報・メディア論			2						兼 1
		博物館実習			3						兼 1 兼任教員変更(26) 梅田亜由美→佐藤美
	社教	生涯学習概論Ⅱ			2						兼 1 学生の履修機会を増やすため、配当年次を変更。(25) 兼任教員変更(26) 新藤浩伸→栗原保
		社会教育演習および実習			4						兼 1 演習科目として実施するため、科目名称を変更。(25) 履修希望者がいなかったため未開講。(25) 社会教育主事養成課程のカリキュラム変更にもない配当時期を変更。(26) 通常開講(26) 兼任教員変更(26) 関野百子→古塚典洋
		社会教育計画			4						兼 1 資格課程の時間割調整のため、配当時期を変更。(25) 兼任教員変更(25) 新藤浩伸→古塚典洋 履修希望者がいなかったため未開講。(25) 社会教育主事養成課程のカリキュラム変更にもない配当時期を変更。(26) 通常開講(26)
		現代社会と社会教育 社会教育特講Ⅰ			2 4						兼 1 資格課程の時間割調整のため、配当時期を変更。(25) 社会教育主事養成課程のカリキュラム変更にもない、科目名称、配当時期、単位数を変更。(26) 兼任教員変更(26) 関野百子→興世蓮
		社会教育活動 社会教育特講Ⅱ			2 4						兼 1 資格課程の時間割調整のため、配当時期を変更。(25) 兼任教員変更(25) 新藤浩伸→古塚典洋 社会教育主事養成課程のカリキュラム変更にもない、科目名称、単位数を変更。(26) 兼任教員変更(26) 古塚典洋→関野百子

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成25年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
9科目	129科目	0科目	138科目	8科目 [△1]	123科目 [3] [△9]	0科目	131科目	必修△1:「映画制作特別演習」 選択+3:「美術史Ⅰ」「美術史Ⅱ」 「理論専門基礎講義」

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	環境思想	2	3～4後	一般	選択	兼任教員を含む複数の教員のオムニバス授業であることから、時間割調整の都合上、隔年開講科目に変更したため。 平成26年度は未開講。平成27年度は開講する。 この科目と同じ教養科目・D群の科目は他に7科目あり、学生の選択肢は十分確保されている。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	美術史	4	2～4通	一般	選択	学生の履修の選択肢を増やすために、2科目に分割したため。「美術史Ⅰ」(2単位)と「美術史Ⅱ」(2単位)を新設した。(平成24年度)
2	身体文化論	2	2～4前	一般	選択	鴻英良(教授)就任辞退に伴い、科目を廃止したため。教養科目E群は他に9科目あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。(25)
3	映画制作特別演習	10	1後	専門	選択	この科目は、編入学生および「映画制作基礎演習」(1年後期配当・必修8単位)と「脚本基礎演習」(1年前期配当・必修2単位)の成績が不合格となった学生のために設けたものである。 認可時は必修科目としていたが、平成24年度に選択必修科目に修正した。 その後、「映画制作基礎演習」、「脚本基礎演習」それぞれに、編入学生および不合格者を対象とする特別クラスを開講することにしたため、この科目を廃止した。(平成24年度)
4	パフォーマンス概論	2	2前	専門	選択	鴻英良(教授)就任辞退に伴い、科目を廃止したため。理論系の基礎科目は他に12科目あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。
5	理論A専門基礎講義	2	2前	専門	選択	平成25年度の履修コースの変更で、理論A・理論Bコースを理論コースに統合した。これにともない、それぞれのコース対応科目であった「理論A専門基礎講義」および「理論B専門基礎講義」も一つに統合し、「理論専門基礎講義」を新設したため。(平成26年度)
6	理論B専門基礎講義	2	2前	専門	選択	平成25年度の履修コースの変更で、理論A・理論Bコースを理論コースに統合した。これにともない、それぞれのコース対応科目であった「理論A専門基礎講義」および「理論B専門基礎講義」も一つに統合し、「理論専門基礎講義」を新設したため。(平成26年度)
7	戯曲精読	4	3前	専門	選択	鴻英良(教授)就任辞退に伴い、科目を廃止したため。理論系の専門科目は複数あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。
8	舞台芸術批評研究	4	2後	専門	選択	鴻英良(教授)就任辞退に伴い、科目を廃止したため。理論系の専門科目は複数あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。
9	考える身体	2	3前	専門	選択	鴻英良(教授)就任辞退に伴い、科目を廃止したため。理論系の専門科目は複数あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。
10	言語芸術論	2	3後	専門	選択	コーディネーターの鴻英良(教授)就任辞退に伴い、科目を廃止したため。理論系の専門科目は複数あるため、学生の科目選択の可能性は保持されている。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」：

未開講とした「環境思想」は、隔年開講科目への変更のため、平成27年度の学生の履修機会は確保されている。また、この科目と同じ教養科目・D群の科目は他に7科目あり、学生の選択肢も十分確保されている。
 廃止とした「美術史」と「映画制作特別演習」は、上記に記載したとおり他の科目で代替されるため、学生に不利益を与えることはない。鴻英良教授就任辞退に伴い廃止した6科目は、いずれも本学の専門分野である映画の隣接領域の科目である。これ以外に本学では幅広い教養科目と専門科目を開講していることから、カリキュラム上必要な学習の機会は十分確保されていると考えている。なお、今年度に新たに「理論A専門基礎講義」と「理論B専門基礎講義」を廃止したのは、履修コースの統合にともなって対応する科目も統合する必要があったためである。これによる卒業要件などの変更は生じない。

「学生への周知方法」：

全学年に対するカリキュラムと履修登録に関するガイダンスにおいて、未開講・廃止科目の配当年次の学生を中心に周知している。なお、鴻英良教授就任辞退に伴い廃止した科目については、主に理論コースのカリキュラム変更に関わるものであることから、平成24度の時点で理論系コースの学生を対象にしたガイダンスで別途周知した。

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

未開講科目と廃止科目の計	11		
設置時の計画の授業科目数の計	138	=	0.07

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備考		
(1)	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積： 17,462.44㎡ 借用期間： 平成22年4月から 平成55年3月 不算入用地： 7,259.00㎡			
	校 舎 敷 地	2,979.71 —3,064.72 ㎡	— ㎡	— ㎡	2,979.71 —3,064.72 ㎡				
	運動場用地	5,660.00 ㎡	— ㎡	— ㎡	5,660.00 ㎡				
	小 計	8,639.71 —8,724.72 ㎡	— ㎡	— ㎡	8,639.71 —8,724.72 ㎡	校舎敷地： 設置認可時の計画に従 い改修を行い、登記し たため			
	そ の 他	9,862.78 —10,116.77 ㎡	— ㎡	— ㎡	9,862.78 —10,116.77 ㎡				
	合 計	18,502.49 —18,841.49 ㎡	— ㎡	— ㎡	18,502.49 —18,841.49 ㎡	合計： 設置認可後登記したた め			
(2)	校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	設置認可時の計画に従 い改修を行い、登記し たため			
		7,740.65 ㎡ (7,879.78 ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	7,740.65 ㎡ (7,879.78 ㎡)				
(3)	教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	語学学習施設は 情報処理学習施設を 兼ねる		
		40 室	11 室	0 室	0 室 (補助職員 0 人)	1 室 (補助職員 0 人)			
(4)	専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
		映画学部 映画学科			5 室				
(5)	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	電子ジャーナルには データベースの点数を 含む 視聴覚教材充実のため (23) 図書・視聴覚資料充実 のため (24) 図書・視聴覚資料充実 のため (25) 図書・視聴覚資料充実 のため (26)	
	映画学部	7,931 [367] —7,283 [313] —7,136 [303] —7,000 [300] (7,661 [327]) —(7,283 [313]) —(6,036 [203]) —(4,800 [100])	35 [5]	10 [7]	921 —735 —725 —719 —700 (871) —(735) —(625) —(519) —(500)	2	0		
	計	7,931 [367] —7,283 [313] —7,136 [303] —7,000 [300] (7,661 [327]) —(7,283 [313]) —(6,036 [203]) —(4,800 [100])	35 [5]	10 [7]	921 —735 —725 —719 —700 (871) —(735) —(625) —(519) —(500)	2	0		
(6)	図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		290.50 ㎡		72		31,491			
(7)	体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		665.68 ㎡		該 当 な し 該 当 な し					
(8)	経費の見 積り及び 維持方法 の 概 要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	見積価格と納入価格の 差及び平成22年度納期 を平成23年度に変更 (23) 見積価格と納入価格の 差及び納期の変更 (24) 図書・視聴覚資料充実 のため (26)
		教員 1 人当り研究費等	100千円	100千円	図書購入費	0千円 —23,400千円	23,400千円 —5,100千円	2,500千円 — 千円	
		共 同 研 究 費 等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	102,159千円 138,838千円 156,616千円	120,678千円 81,598千円 68,292千円	— 千円	
		学生 1 人当 り 納付金	第 1 年次 1,880千円	第 2 年次 1,580千円	第 3 年次 1,580千円	第 4 年次 1,580千円	第 5 年次 — 千円	第 6 年次 — 千円	
		学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし					

-
- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成26年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(26)」を「備考」に赤字で記入してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	日 本 映 画 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地		
映画学部映画学科	年 4	人 140	年次 人 2年次20 3年次10	人 640	学士 (映画学)	倍 0.99	平成23年度	神奈川県川崎市 麻生区万福寺 1-16-30		
大 学 の 名 称	該 当 な し									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地		
	年	人	年次 人	人		倍				

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成26年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。（ただし、専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

- ・ 「平均定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「－」とし、「備考」に「平成○年より学生募集停止」と記入してください。
- ・ 大学、短期大学においては学科単位（短期大学において専攻課程を置くときは専攻課程単位）、大学院においては専攻単位で記入してください。

5 教員組織の状況

＜映画学部 映画学科＞

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	カハシ セリ 高橋 世織 (60)	平成23年4月	スタートアップ演習	専	教授	カハシ セリ 高橋 世織 (64)	平成23年4月	スタートアップ演習	土田環准教授の単独科目に変更したため、担当科目を削除。 (25)
				人間総合研究					人間総合研究	
				日本文化論					日本文化論	
				表象文化論					表象文化論	
				触覚論					触覚論	
				死生観のコスモロジー					死生観のコスモロジー	
				日本へのまなざし					日本へのまなざし	
				音響論					音響論	
				環境思想					環境思想	
				イメージの図像学					イメージの図像学	
				映像とことば					映像とことば	
				理論A 専門基礎講義					理論A 専門基礎講義 科目廃止 (26)	
									理論専門基礎講義	
				映画前史					映画前史	
				シュルレアリスム研究					シュルレアリスム研究	
				言語芸術論					言語芸術論 科目廃止 (25)	
				卒業論文・プロジェクトⅠ					卒業論文・プロジェクトⅠ	
				卒業論文・プロジェクトⅡ					卒業論文・プロジェクトⅡ	
専	教授	マカハ ミチ 熊岡 路矢 (64)	平成23年4月	スタートアップ演習	専	教授	マカハ ミチ 熊岡 路矢 (67)	平成23年4月	スタートアップ演習	平成25年度の履修コースの変更で、理論A・理論Bコースを統合。それにもない「理論A専門基礎講義」は科目廃止、新設の「理論専門基礎講義」に統合した。(26)
				人間総合研究					人間総合研究	
				国際理解基礎Ⅰ					国際理解基礎Ⅰ	
				死生観のコスモロジー					死生観のコスモロジー	
				環境思想					環境思想	
				国際理解基礎Ⅱ					国際理解基礎Ⅱ	
				理論B 専門基礎講義					理論B 専門基礎講義 科目廃止 (26)	
									理論専門基礎講義	
				国際理解Ⅱ					国際理解Ⅱ	
				国際理解Ⅰ					国際理解Ⅰ	
				卒業論文・プロジェクトⅠ					卒業論文・プロジェクトⅠ	
				卒業論文・プロジェクトⅡ					卒業論文・プロジェクトⅡ	
専	教授	マカハ ミチ 大友 りお (58)	平成23年4月	スタートアップ演習	専	教授	マカハ ミチ 大友 りお (61)	平成23年4月	スタートアップ演習	平成25年度の履修コースの変更で、理論A・理論Bコースを統合。それにもない「理論A専門基礎講義」は科目廃止、新設の「理論専門基礎講義」に統合した。(26)
				英語Ⅰ					英語Ⅰ	
				日本語					日本語	
				フェミニズムの視点					フェミニズムの視点	
				英語Ⅱ					英語Ⅱ	
				翻訳概論					翻訳概論	
				日本へのまなざし					日本へのまなざし	
				英米文学精読					英米文学精読	
				理論A 専門基礎講義					理論A 専門基礎講義 科目廃止 (26)	
									理論専門基礎講義	
				クイア理論					クイア理論	
				物語論					物語論	
専	教授	カサキ ケノ 川崎 賢子 (55)	平成25年4月	スタートアップ演習	専	教授	カサキ ケノ 川崎 賢子 (57)	平成24年4月	スタートアップ演習	教育・研究環境を向上するため、就任年度を繰り上げた。 (23)
				文化研究方法論					文化研究方法論	
				コミュニケーション					コミュニケーション	
				芸能概論					芸能概論	
				理論B 専門基礎講義					理論B 専門基礎講義 科目廃止 (26)	
									理論専門基礎講義	
				文芸精読					文芸精読	
				宝塚学					宝塚学	
				物語論					物語論	
				卒業論文・プロジェクトⅠ					卒業論文・プロジェクトⅠ	
				卒業論文・プロジェクトⅡ					卒業論文・プロジェクトⅡ	

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	イシザカ ケンジ 石坂 健治 (51)	平成24年4月	スタートアップ演習	専	教授	イシザカ ケンジ 石坂 健治 (53)	平成24年4月	スタートアップ演習	土田環准教授の単独科目に変更したため、担当科目を削除。 (25)
				表象文化論					表象文化論	
				コミュニケーション					コミュニケーション	
				日本へのまなざし					日本へのまなざし	
				フィルム・アーカイヴ学					フィルム・アーカイヴ学	
				映画流通論					映画流通論	
				理論 B 専門基礎講義					理論 B 専門基礎講義 科目廃止 (26)	
									理論専門基礎講義	
				アジア映画史					アジア映画史	
				ドキュメンタリー映画史					ドキュメンタリー映画史	
				上映企画WS					上映企画WS	
				卒業論文・プロジェクトⅠ					卒業論文・プロジェクトⅠ	
				卒業論文・プロジェクトⅡ					卒業論文・プロジェクトⅡ	
				人間総合研究	教育環境を向上するため、担当科目を追加。 平成23年8月 AC教員審査済 (23)					
				インターンシップⅠ	教育環境を向上するため、担当科目を追加。 平成23年8月 AC教員審査済 (23)					
				インターンシップⅡ	教育環境を向上するため、担当科目を追加。 平成23年8月 AC教員審査済 (23)					
				合同制作 B	教育環境を向上するため、担当科目を追加。 平成23年8月 AC教員審査済 (23)					
専	准教授	タハベ シュウジ 田辺 秋守 (50)	平成25年4月	スタートアップ演習	専	准教授	タハベ シュウジ 田辺 秋守 (53)	平成23年4月	スタートアップ演習	1年次、2年次配当の担当科目が多いため、就任年度を繰り上げた。 (23)
				人間総合研究					人間総合研究	
				表象文化論					表象文化論	
				哲学					哲学	
				映画ヒーロー論					映画ヒーロー論	
				理論 A 専門基礎講義					理論 A 専門基礎講義 科目廃止 (26)	
									理論専門基礎講義	
				映画理論 A					映画理論 A	
				映画イメージ論					映画イメージ論	
				映画ジャンル論 B					映画ジャンル論 B	
				比較映画論					比較映画論	
				物語論					物語論	
				情況論					情況論	
卒業論文・プロジェクトⅠ	卒業論文・プロジェクトⅠ									
卒業論文・プロジェクトⅡ	卒業論文・プロジェクトⅡ									
専	准教授	イヅノ サトシ 伊津野 知多 (41)	平成23年4月	スタートアップ演習	専	准教授	イヅノ サトシ 伊津野 知多 (44)	平成23年4月	スタートアップ演習	土田環准教授の単独科目に変更したため、担当科目を削除。 (25)
				表象文化論					表象文化論	
				触覚論					触覚論	
				日本へのまなざし					日本へのまなざし	
				インターンシップⅠ					インターンシップⅠ	
				インターンシップⅡ					インターンシップⅡ	
				映画ヒーロー論					映画ヒーロー論	
				映像とことば					映像とことば	
				理論 A 専門基礎講義					理論 A 専門基礎講義 科目廃止 (26)	
									理論専門基礎講義	
				映画理論 B					映画理論 B	
				映画理論研究					映画理論研究	
				映画理論C					映画理論C	
映画ジャンル論 A	映画ジャンル論 A									
卒業論文・プロジェクトⅠ	卒業論文・プロジェクトⅠ									
卒業論文・プロジェクトⅡ	卒業論文・プロジェクトⅡ									
				人間総合研究	教育環境を向上するため、担当科目を追加。 平成23年8月 AC教員審査済 (23)					
				キャリア・サポートⅠ	教育環境を向上するため、担当科目を追加。 平成23年8月 AC教員審査済 (23)					

設置時の計画					変更状況					備考
専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	オオハシ ノブヲ 大澤 信亮 (34)	平成23年4月	スタートアップ演習	専	准教授	オオハシ ノブヲ 大澤 信亮 (37)	平成23年4月	スタートアップ演習	平成25年度の履修コースの変更で、理論A・理論Bコースを統合。それにとり代「理論B専門基礎講義」は科目廃止、新設の「理論専門基礎講義」に統合した。(26)
				人間総合研究					人間総合研究	
				批評論					批評論	
				文章表現論					文章表現論	
				サブ・カルチャー論					サブ・カルチャー論	
				物語WS					物語WS	
				ジャーナリズム論					ジャーナリズム論	
				日本へのまなざし					日本へのまなざし	
				理論B専門基礎講義					理論B専門基礎講義 科目廃止 (26)	
									理論専門基礎講義	
専	准教授	ナカガハチ ユウ 中川 諒 (36)	平成24年4月	物語論	専	准教授	ナカガハチ ユウ 中川 諒 (38)	平成24年4月	物語論	平成25年度の履修コースの変更で、理論A・理論Bコースを統合。それにとり代「理論B専門基礎講義」は科目廃止、新設の「理論専門基礎講義」に統合した。(26)
				文芸WS					文芸WS	
				卒業論文・プロジェクトⅠ					卒業論文・プロジェクトⅠ	
				卒業論文・プロジェクトⅡ					卒業論文・プロジェクトⅡ	
				スタートアップ演習					スタートアップ演習	
				情報社会論					情報社会論	
				表象文化論					表象文化論	
				サブ・カルチャー論					サブ・カルチャー論	
				情報メディア論					情報メディア論	
				コンテンツ文化史					コンテンツ文化史	
専	准教授	ハノ トンヒョ 韓 東賢 (43)	平成24年4月	理論B専門基礎講義	専	准教授	ハノ トンヒョ 韓 東賢 (45)	平成24年4月	理論B専門基礎講義 科目廃止 (26)	平成25年度の履修コースの変更で、理論A・理論Bコースを統合。それにとり代「理論B専門基礎講義」は科目廃止、新設の「理論専門基礎講義」に統合した。(26)
									理論専門基礎講義	
				メディア表現論					メディア表現論	
				卒業論文・プロジェクトⅠ					卒業論文・プロジェクトⅠ	
				卒業論文・プロジェクトⅡ					卒業論文・プロジェクトⅡ	
				スタートアップ演習					スタートアップ演習	
				フィールド調査方法論					フィールド調査方法論	
				韓国語					韓国語	
				社会学入門					社会学入門	
専	准教授	ツチダ タマキ 土田 環 (37)	平成25年4月	朝鮮半島の近現代社会史	専	准教授	ツチダ タマキ 土田 環 (37)	平成25年4月	朝鮮半島の近現代社会史	平成25年度の履修コースの変更で、理論A・理論Bコースを統合。それにとり代「理論B専門基礎講義」は科目廃止、新設の「理論専門基礎講義」に統合した。(26)
				理論B専門基礎講義					理論B専門基礎講義 科目廃止 (26)	
									理論専門基礎講義	
				エスニシティ研究					エスニシティ研究	
				卒業論文・プロジェクトⅠ					卒業論文・プロジェクトⅠ	
				卒業論文・プロジェクトⅡ					卒業論文・プロジェクトⅡ	
				人間総合研究					人間総合研究	
専	准教授			スタートアップ演習	専	准教授			スタートアップ演習	教育環境を向上するため、専任教員の新規採用。(25) 平成24年12月教員審査済
				人間総合研究					人間総合研究	
				表象文化論					表象文化論	
				日本へのまなざし					日本へのまなざし	
				インターンシップⅠ					インターンシップⅠ	
				インターンシップⅡ					インターンシップⅡ	
				映画ヒーロー論					映画ヒーロー論	
				フィルム・アーカイヴ学					フィルム・アーカイヴ学	
				映画流通論					映画流通論	
				理論A専門基礎講義 科目廃止 (26)					理論A専門基礎講義 科目廃止 (26)	
専	准教授			理論専門基礎講義	専	准教授			理論専門基礎講義	平成25年度の履修コースの変更で、理論A・理論Bコースを統合。それにとり代「理論B専門基礎講義」は科目廃止、新設の「理論専門基礎講義」に統合した。(26)
				比較映画論					比較映画論	
				ドキュメンタリー映画史					ドキュメンタリー映画史	
				卒業論文・プロジェクトⅠ					卒業論文・プロジェクトⅠ	
				卒業論文・プロジェクトⅡ					卒業論文・プロジェクトⅡ	

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	タカハシ カツゾウ 高橋 克三 (60)	平成24年4月	キャリア・サポートⅠ	兼任	講師	ヤマモト シゲル 山本 繁 (35)	平成24年4月	キャリア・サポートⅠ	平成24年度より担当教員を変更。(24)
				キャリア・サポートⅡ	兼任	講師	ヤマモト シゲル 山本 繁 (35)	平成24年4月	キャリア・サポートⅡ	平成24年度より担当教員を変更。(24)
					兼任	講師	サイトウ ヒロコ 斉藤 寛子 (29)	平成26年4月	キャリア・サポートⅡ	平成26年度より担当教員を変更。(26)
				キャリア・サポートⅢ	兼任	講師	ヤマモト シゲル 山本 繁 (35)	平成24年4月	キャリア・サポートⅢ	平成24年度より担当教員を変更。(24)
					兼任	講師	サイトウ ヒロコ 斉藤 寛子 (29)	平成26年4月	キャリア・サポートⅢ	平成26年度より担当教員を変更。(26)
兼任	講師	サカヅリ マサヒコ 坂尻 昌平 (54)	平成24年4月	アメリカ映画史			後任未定		アメリカ映画史	平成26年度より担当教員を変更。(26)
兼任	講師	シンドウ ヒロノブ 新藤 浩伸 (34)	平成25年4月	社会教育計画	兼任	講師	コホリ リヒロ 古壕 典洋 (30)	平成25年4月	社会教育計画	平成25年度より担当教員を変更。(25)
									社会教育特講Ⅱ	平成25年度より担当教員を変更。(25)
				社会教育特講Ⅱ	兼任	講師	マノ モモコ 間野 百子 (54)	平成25年4月	社会教育特講Ⅱ 社会教育活動	社会教育主事養成課程のカリキュラム変更にもとない、科目名称を変更。(26) 平成26年度より担当教員を変更(26)
					兼任	講師	シンドウ ヒロノブ 新藤 浩伸 (35)	平成25年4月	生涯学習概論 科目廃止(24)	「生涯学習概論」を「生涯学習概論Ⅰ・Ⅱ」の2科目に分割したことにより科目廃止。(24)
					兼任	講師	シンドウ ヒロノブ 新藤 浩伸 (35)	平成25年4月	生涯学習概論Ⅰ	「生涯学習概論」を分割したことにより科目を新設。(24)
				生涯学習概論	兼任	講師	クリハラ タツ 栗原 保 (60)	平成26年4月	生涯学習概論Ⅰ	平成26年度より担当教員を変更。(26)
					兼任	講師	シンドウ ヒロノブ 新藤 浩伸 (35)	平成25年4月	生涯学習概論Ⅱ	「生涯学習概論」を分割したことにより科目を新設。(24)
					兼任	講師	クリハラ タツ 栗原 保 (60)	平成26年4月	生涯学習概論Ⅱ	平成26年度より担当教員を変更。(26)
兼任	講師	マノ モモコ 間野 百子 (53)	平成23年4月	教育学概論	兼任	講師	マノ モモコ 間野 百子 (54)	平成25年4月	教育学概論 科目廃止(23)	新カリキュラムでの学芸員養成課程申請に伴い、科目廃止。(23) 「教育学概論」を廃止したことにより、就任が遅延した。(23)
				社会教育演習および実習	兼任	講師	コホリ リヒロ 古壕 典洋 (29)	平成25年4月	社会教育演習	演習科目として実施するため、科目名称を変更。(25) 平成26年度より担当教員を変更。(26)
				社会教育特講Ⅰ	兼任	講師	オセヨシ 呉 世運 (28)	平成26年4月	社会教育特講Ⅰ 現代社会と社会教育	社会教育主事養成課程のカリキュラム変更にもとない、科目名称を変更。(26) 平成26年度より担当教員を変更(26)
兼任	講師	ヤマナシ トシオ 山梨 俊夫 (65)	平成24年4月	博物館学					博物館学 科目廃止(23)	新カリキュラムでの学芸員養成課程申請に伴い、科目廃止。(23)
					兼任	講師	オオタ ヤス 太田 泰人 (62)	平成24年4月	博物館資料論	平成23年度より担当教員を変更。(23)
				博物館資料論	兼任	講師	サカヅリ ミチ 佐川 美智子 (60)	平成25年4月	博物館資料論	平成24年度より担当教員を変更。(24)
					兼任	講師	オオタ ヤス 太田 泰人 (62)	平成26年4月	博物館資料論	平成26年度より担当教員を変更。(26)
					兼任	講師	ヤマナシ トシオ 山梨 俊夫 (66)	平成25年4月	博物館経営論	新カリキュラムでの学芸員養成課程申請に伴い、科目を新設。(23) 「博物館学」の廃止と「博物館資料論」の担当者変更により、就任が遅延した。(23)
					兼任	講師	シガ ケンジ 志賀 健二郎 (63)	平成26年4月	博物館経営論	平成26年度より担当教員を変更。(26)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	ウダグ アミ 梅田 亜由美 (37)	平成26年4月	博物館実習	兼任	講師	サトリ ミヅ 佐藤 実 (50)	平成26年4月	博物館実習	平成26年度より担当教員を変更。 (26)
兼任	講師	カマ マコ 鹿島 蘭 (44)	平成24年4月	絵巻特論	兼任	講師	クニコウ (教仁郷) カシマ マコ 鹿島 蘭 (46)	平成24年4月	絵巻特論	「美術史Ⅰ」と「美術史Ⅱ」に 分割したことにより廃止。 (24)
				美術史					美術史 科目廃止	
									美術史Ⅰ	
									美術史Ⅱ	
兼任	講師	カハシ ミヅキ 高橋 瑞木 (40)	平成25年4月		兼任	講師	サカウ ミチ 佐川 美智子 (60)	平成26年4月	美術史Ⅱ	「美術史」を分割したことにより 科目を新設。(24) 平成25年度より担当教員を変更。 (25)
									美術史Ⅱ	
									美術史Ⅱ	
									美術史Ⅱ	
兼任	講師	キリタ ナオキ 木下 直之 (60)	平成24年4月		兼任	講師	ウエノ マスミ 植野 真澄 (38)	平成26年4月	博物館展示論	平成26年度より担当教員を変更。 (26)
									博物館展示論	
									博物館概論	
									博物館概論	

(注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成26年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					年 齢 構 成	
教 授	准教授	講 師	助 教	計	教 授	准教授	講 師	助 教	計	定年規定の定める 定年年齢	定年を延長 している教員数
14	8	1	0	23	13	10	1	0	24	70	1
(8)	(3)	(0)	(0)	(11)	[△1]	[2]	[0]	[0]	[1]	歳	名

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
- ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
- ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	講師	濱口 文幸	平成23年4月急逝のため。
2	教授	鴻 英良	日本映画大学設置にあたって、平成22年3月には平成24年4月1日から専任教員(教授)としての就任を承諾していたが、平成24年3月になって、本人の演劇を中心とした批評活動と本学の就業規則の考え方について合意が得られなかったため、本年4月からの専任教員としての就任を辞退した。

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任(就任辞退を含む)等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」：

濱口文幸(講師)の担当科目は、新規採用した兼任教員と専任教員(佐野哲郎准教授)で担当するため、カリキュラムの変更は生じていない。

就任辞退の鴻英良(教授)の担当する授業科目のうち、「スタートアップ演習」、「演劇WSⅠ」、「映画と演劇」、「卒業論文・プロジェクトⅠ」、「卒業論文・プロジェクトⅡ」の5科目は、他に担当教員がいるため授業運営に支障はなく、カリキュラムの変更も生じていない。「理論A専門基礎講義」は平成26年度より「理論専門基礎講義」に統合されて廃止とした。「理論専門基礎講義」は複数教員のオムニバス科目であるため、やはり授業運営に支障はない。

「身体文化論」、「パフォーマンス概論」、「戯曲精読」、「舞台芸術批評研究」、「考える身体」、「言語芸術論」の6科目は廃止としたが、当該科目の属するカテゴリの科目は他に複数あるため、学生の選択肢は十分確保されている。

「学生への周知方法」：

担当教員変更および科目廃止についての情報は、全学年に対するカリキュラムと履修登録に関するガイダンスにおいて周知した。なお、鴻英良教授就任辞退に伴い廃止した科目については、主に理論コースのカリキュラム変更に関わるものであることから、平成24年度の時点で理論系コースの学生を対象にしたガイダンスで別途周知した。また、変更状況は、学生に配布する「学生便覧」と「シラバス」に反映した。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (22年10月)	設置の趣旨・目標が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	設置認可された設置計画の確実な履行を行っているところである。 教育研究活動のより一層の向上を図るため、学内に委員会等を設置し、鋭意検討を始めている。(平成23年5月)	
設置計画履行状況 調 査 時 (24年2月)	該 当 な し		
設置計画履行状況 調 査 時 (25年2月)	該 当 な し		
設置計画履行状況 調 査 時 (26年2月)	該 当 な し		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<映画学部 映画学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 履修コースに関する変更 履修コースは全7コース（脚本演出・撮影照明・録音・編集・ドキュメンタリー・理論A・理論B）。 理論系に2コース設ける。 4年次の「卒業論文・プロジェクト」の際に主査となる教員の専門分野に応じて、ゆるやかに2つのコースに分かれるが、3年次までの理論コース内での選択必修科目の選択肢は同じで、どちらの専門の教員の授業も履修することが可能。また、「卒業論文・プロジェクト」においても、主査以外の理論系教員が全員でサポートできる体制をとる。	① 履修コースに関する変更 履修コースは全6コース（脚本演出・撮影照明・録音・編集・ドキュメンタリー・理論）。 映画は複合的な文化事象であるため、映画にアプローチするためには隣接諸領域に対する関心と理解が欠かせない。実際、映画研究も複合領域にまたがって展開されてきた歴史をもつ。そのため、理論コースは、設置計画時より映画だけでなく広い意味での文化全般を、歴史的・社会的・批評的に探究することを目的としている。 このような教育目的を明確にする上で、理論コース内をさらに2つのコースに分けることは適切でないと判断した。 理論コース一期生（平成23年度入学者）も、理論A・Bコースにまたがる領域に関心を持っている者が多く、コースの統合への希望が出されていた。 なお、コースの統合にともない、カリキュラム上の変更は生じない。設置時と同じく、3年次までの理論系選択必修科目の選択肢は同じで、どの教員の授業も履修することが可能である。 「卒業論文・プロジェクト」では、研究対象に応じて主査と副査を設けるが、主査以外の理論系教員が全員でサポートできる体制をとる。

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 ・平成24年度より、各種委員会の見直しに伴い、独立した委員会としてFD委員会を設置。 ・委員長、中原俊弘教授。平成26年度より委員長職務代理、佐野哲郎准教授。他専任教員5名。 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ・平成25年度第1回FD委員会（平成25年4月19日開催）：出席9名（うち陪席者1名） ・平成25年度第2回FD委員会（平成25年5月10日開催）：出席7名（うち陪席者1名） ・平成25年度第3回FD委員会（平成25年6月14日開催）：出席7名（うち陪席者1名） ・平成25年度第4回FD委員会（平成25年9月13日開催）：出席8名（うち陪席者1名） ・平成25年度第5回FD委員会（平成25年10月11日開催）：出席7名（うち陪席者1名） ・平成25年度第6回FD委員会（平成25年12月13日開催）：出席8名（うち陪席者1名） ・平成26年度第1回FD委員会（平成26年4月18日開催）：出席7名（うち陪席者2名） ・平成25年第1回（通算第3回）用語検討会議（平成25年9月13日開催）：出席9名（うち陪席者3名） ・平成25年第2回（通算第4回）用語検討会議（平成25年12月13日開催）：出席11名（うち陪席者5名）

c 委員会の審議事項等

- ・ 本学の特色を活かしたFDの方策について
- ・ 創作系の演習授業で使用する映画技術用語の統一について
- ・ 佐藤学長講義（日本映画史）の映像・音声の記録について
- ・ FD委員会主催の講演会について
- ・ 授業評価アンケートについて
- ・ 平成26年度予算について

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 恒常的な取組みとして、授業方法についての検討会や教員相互の授業参観、教員共同での授業の構築、授業評価アンケートを下記の要領で毎年実施していく。
- ・ 短期的な取組みとして、創作系の演習授業で使用する映画技術用語の統一および、佐藤学長講義（日本映画史）の映像・音声記録の作成を、下記の要領で実施する。
また、FD委員会主催の講演会を下記の要領で開催し、教職員のFD活動への取り組みを促す。

b 実施方法

- ・ 授業方法についての検討会： 1・2年次必修科目について、科目担当教員、1年担任、教務職員で授業内容の検討、情報交換を行う。2年次後期からの専門コース別の選択必修科目について、コースごとに部会を開き、随時教務職員も交えて授業内容の検討と情報交換を行う。検討会で決定した事項は必要に応じて教務委員会ですらに検討し、教授会等で方針を周知する。
- ・ 教員相互の授業参観： 学部長を中心として授業参観を実施。
- ・ 共同で授業を構築する取り組み： コラボレーション授業、オムニバス授業で、異なる専門を持つ教員同士が合同授業を構築、それぞれの授業に参加して討議を行うほか、授業終了時には反省会も行う。
- ・ 授業評価アンケート： 原則として全科目に対して実施。
- ・ 創作系の演習授業で使用する映画技術用語の統一： 各パートの教員を構成員とする用語検討会議を開催し、用語法を確定。用語集を作成し、授業担当教員に配布する。
- ・ 佐藤学長講義（日本映画史）の映像・音声記録の作成： 講義を撮影・録音・編集してDVD化し、全専任教員に配布。
- ・ FD委員会主催の講演会： FD委員会を中心に講師の選定を行い、FD活動や「大学の将来の在り方」に関わる講演会を企画・実施。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 授業方法についての検討会や教員相互の授業参観、教員共同での授業の構築については、平成23年度より随時実施している。授業評価アンケートは、平成24年度前期より実施している。
- ・ 創作系の演習授業で使用する映画技術用語の統一： 平成25年9月13日に第3回（通算）用語検討会議を開催し、平成24年度の統一用語の再検討を行った。決定した用語は、「映画制作基礎演習」授業担当教員に周知。平成25年12月13日に第4回（通算）用語検討会議を開催し、脚本関係の用語についての検討を行った。
- ・ 佐藤学長講義（日本映画史）の映像・音声記録の作成： 平成24年度に全講義（7回）を収録。平成25年度の講義は、昨年度とは異なる作品を扱う回（3回）のみ収録。平成25年度に全ての編集作業を行い、DVDを作成。全専任教員に配布した。
- ・ FD委員会主催の講演会： 平成25年12月20日に講演会「『ゆとり教育』の学生と映画大学の将来像」を開催。講師：寺脇研氏。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・小規模の大学であるため、授業検討会や反省会を臨機応変に行うことができ、効果が上がっている。
- ・学生と教職員間の距離が近いこと、学生からの授業への要望・感想を常に聴取することができ、授業方法についての検討に活かされている。
- ・コラボレーション授業、オムニバス授業は、教員同士のコミュニケーションを促進し、授業についての意見や感想等を自由に伝え合うことのできる場となっている。複数の教員と接し、教員どうしの議論を聞くことができるこれらの授業は、学生からも高い評価を得ているため、引き続き試み続ける。
- ・平成23年度から担当教員ごとに創作系の演習授業で使用する映画技術用語に相違があることが懸案事項として挙げられていた。実際の映画制作の現場では人により異なる用語が使用されることも多いが、教育現場である本学としては用語を統一し、学生の混乱を避けることを目指した。これを受けて、平成24年度より、特に1年生の必修授業で使用する映画技術用語のうち、基本的な用語についての統一を図る取り組みに着手、平成24年度後期から統一用語での授業を開始している。平成25年度は昨年度の結果をふまえた用語の再検討を行った。今後必要に応じて用語の検討を続けていく。
- ・平成24年度に収録を開始した佐藤忠男学長の講義DVDが完成し、平成25年度に全専任教員に配布した。これは、映画が専門領域ではない教員に映画史の基礎知識を学ぶ機会を提供するとともに、それぞれの教員が授業計画をたてる際の参考に供することを目的としたもので、本学独自の授業改善の試みである。今後も、必要に応じ追加収録を予定している。
- ・平成25年度は初めての試みとして、大学改革に関わり、映画製作者でもある講師を迎えて、FD委員会主催の講演会を開催した。映画を中心に据えた本学独自の教育の在り方について、教員職員がともに考える機会となった。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・平成24年度前期より、授業評価アンケートを原則として全科目に対して実施している。
- 平成24年度、25年度ともおおむね80%以上が満足しているという調査結果となっている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・アンケート集計結果は担当教員に配布している。教員はこの結果を分析し、各自の更なる授業改善に活かす。
- ・またFD委員長（中原俊弘教授）が、全科目の集計結果の内容を確認・検討する。これを受けて、授業改善に向けての各教員の取組みを促すための方法をFD委員会にて検討・議論し、必要に応じて担当教員にフィードバックしている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・本学は開学して4年目を迎えたところであるが、「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合が0.07であることや教員の若干の異動があるものの、概ね設置の趣旨・目的に沿った教育研究活動が展開されている。
- 自己点検評価の着実な実施とFD活動の取組により、学生に対する授業評価アンケートにおいて平成24年度、25年度とも概ね80%以上が満足しているという調査結果となっている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成24年度自己点検評価書は、平成25年11月に取りまとめホームページ上で公表。
- ・平成25年度自己点検評価書は、平成26年7月までに取りまとめホームページ上で公表予定。

b 公表方法

- ・平成25年度の自己点検評価書を作成し、大学ホームページ上に公表予定（平成26年7月末を予定）。

③ 認証評価を受ける計画

- ・日本高等教育評価機構の評価を受ける予定（受審年度は平成28年度を予定）。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成26年6月 公表予定)